



新幹線・修旅専用列車

第1陣が関西へ

ふくらむ夢のせて

東京駅頭

はなやかな出発式

全国の中学生や高校生待望の新幹線修学旅行専用列車の第一陣は埼玉県下の中学生八百五十三名を乗せて三月十六日朝八時十五分、東京駅を出発した。この日、国鉄、全修研、関東地区修旅委員会は出発ホームで出発式を行った。新しい修学旅行の「あけぼの」を祝した。新幹線列車に乗込んだ生徒たちは出発式に臨んだ関係者の顔には喜びと感激があふれていた。なお、新聞、放送など報道機関ではこの出発式を全国に伝えたほか京都駅到着の模様も大きく取りあげ報道した。

すから春めいたうららかなこの朝、晴れの第一陣、埼玉県幸手市三百一十八代中(四十八名)、名古屋市百四十九名、吉田中(八十名)、栗橋西中(百六名)、栗橋東中(百五十七名)の総員八百五十三名は、午前七時半にそれぞれ東京駅に到着。東京駅改札係長の高田福松氏は、JRの配慮によって割り当てたの車両に乗り換わるまで北口、中央口などの待合所に集合した。やがて生徒たる旅委員長、幸手中学校長、埼玉県立中学校修研委員会から渡辺東京駅長(右)と生徒代表と握手をかわす山内車掌長。(下)は大寝台の車両の生徒たち。

写真上: 握手する全修研山本理事長(左から八目)、左は渡辺東京駅長、右は大寝台の車両の生徒たち。
写真中: 握手する全修研山本理事長(左から八目)、左は渡辺東京駅長、右は大寝台の車両の生徒たち。
写真下: 甲: 生徒代表と握手をかわす山内車掌長。

修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会
会員 白瀧末紀
人千代田(幅ビル)
東京都8-7 (262) 2426-2932
電話 振替 (東京) 36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従つて修学旅行を安坐かつ有效地に実施するため企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務である。

(財団法人 全国修学旅行研究協会の趣旨書から)

修学旅行は学生旅行が文字通りの超特急で往復できるようになります。諸君たちは非常に幸運です。

今までの半分の所要時間で目的地に着くが、そのぶん見学などに大いに活用してほしい」と述べた。

渡辺東京駅長は「修学旅

行は学校生活のなかで最も樂しい

思い出となるもの。どうか美しい

日本の自然や尊い文化遺産をじゅ

うぶん味わい、ひつてもひついた

い。そして人間作り役立つよう

な旅をよほし。では元気で行

つてらっしゃい」と温厚な口調

で語りかけた。また、この日、幸

手中学校長として同乗の高田福松

氏は新幹線修学旅行の第一陣と

ついで車内での準備については

車内放送を第一陣から実施し

た。さうして車内の整備については

車内放送を第一陣から実施し

</div

